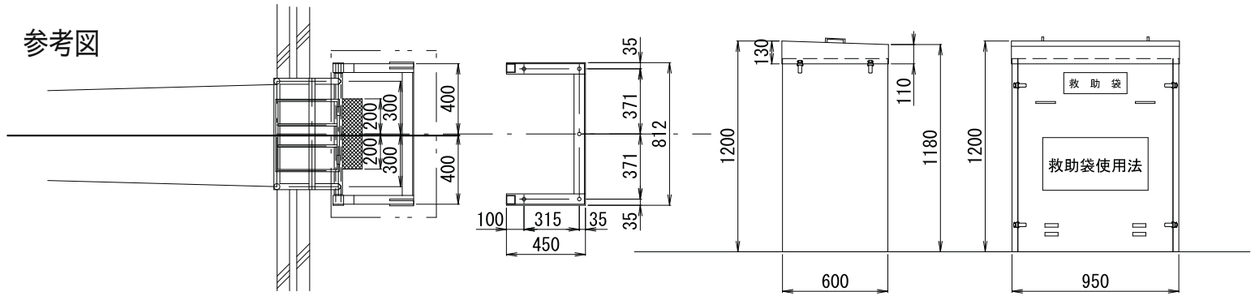
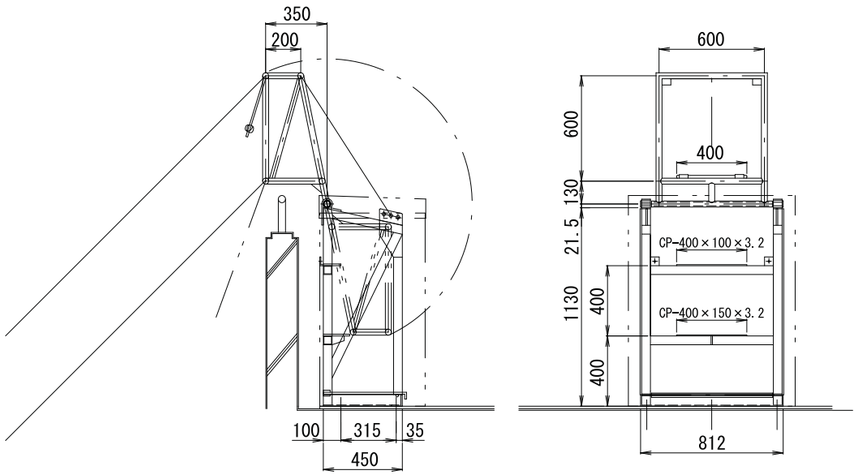
参考図



平面図　アンカーボルト配置図　分解型格納箱（図面は屋外仕様）



側面図　正面図

斜降式救助袋の主要材料

袋本体

名称	材質	規格
袋本体布	ポリエステル4号、5号	引張強さ　タテ、ヨコ1,000N 以上
落下防止布	ポリエステル5号	引張強さ　タテ、ヨコ1,000N 以上
受布、覆い布	ポリエステル4号、5号	引張強さ　タテ、ヨコ1,000N 以上
展張部材	ポリエステルベルト	引張強さ　14,500N×2本

取付具

名称	材質	規格
取付金具	鋼材	L-65×65×6 、□-50×50×2.3
入口金具	一般構造用鋼管	27.2φ×2.8 、34.0φ×3.2 、42.7φ×3.5

格納箱

名称	材質	仕上
鋼板	ボンデ鋼板1.2mm	粉体焼付塗装仕上
	ステンレス鋼板1.2mm	ヘアライン仕上
取手	亜鉛合金	サチライトクロムメッキ仕上

固定環

名称	材質	規格
鋼板	スチール製（さび止め下地塗装）	139×139×t6（上蓋）
	ステンレス製（鏡面仕上）	140×140×t6（上蓋）

その他

名称	材質	規格
縫糸	ナイロン、ポリエステル	#5 、#2
誘導ロープ	PPマルチフィラメント	16打 、6φ 、オレンジ
吊りロープ	ワイヤロープ	6φ 、8φ 、10φ 、12φ
保護マット	フェルト	10mm以上
取手	ナイロンベルト	50×2.0
下部支持装置	滑車、ビニロンロープ	1車 、2車 、ロープ10φ



お問い合せは・・・・・

●本製品は予告なく変更することがあります



ORIRO オリロー株式会社

本　社　〒112-0001　東京都文京区白山 4-25-6
URL : https://www.oriro.co.jp　e-mail : oriro@oriro.co.jp

札幌支店	〒060-0008	北海道札幌市中央区北 8 条西 24-1-3 TEL. 011-640-7744　FAX. 011-615-8299
東北支店	〒983-0043	宮城県仙台市宮城野区萩野町 1-16-6 TEL. 022-208-7744　FAX. 022-208-7747
北関東支店	〒350-2201	埼玉県鶴ヶ島市富士見 4-28-35 アークパレス 1F TEL. 049-279-7744　FAX. 049-279-7745
東京支店	〒112-0001	東京都文京区白山 4-25-6 TEL. 03-3814-7744　FAX. 03-3813-2909
横浜支店	〒232-0061	神奈川県横浜市南区大岡 2-17-24 TEL. 045-277-7744　FAX. 045-277-7745
名古屋支店	〒453-0804	愛知県名古屋市中村区黄金通 1-3 ファンファーレ黄金 1F TEL. 052-352-7744　FAX. 052-352-7775
大阪支店	〒552-0007	大阪府大阪市港区弁天 2-14-24 TEL. 06-6572-7744　FAX. 06-6574-2994
九州支店	〒815-0031	福岡県福岡市南区清水 3-9-21 TEL. 092-551-7744　FAX. 092-511-6555
新潟営業所	〒959-0227	新潟県燕市粟生津山王 724 TEL. 0256-92-7744　FAX. 0256-92-4949
埼玉東営業所	〒336-0022	埼玉県さいたま市南区白幡 5-16-20 ビューロ MK1F TEL. 048-829-7400　FAX. 048-829-7410
千葉営業所	〒273-0033	千葉県船橋市本郷町 421-2 大塚ビル 1F TEL. 047-311-4470　FAX. 047-311-4474
東京西営業所	〒183-0022	東京都府中市宮西町 3-5-4　パークヒル 2F TEL. 042-319-0644　FAX. 042-319-0844
メンテナンス部	〒113-0001	東京都文京区白山 1-23-12 清水ハイツ 1F TEL. 03-3815-7744　FAX. 03-3815-7745
広島出張所 (九州支店管轄)	〒732-0052	広島県広島市東区光町1-11-5 チサンマンション広島506 TEL. 082-258-7220　FAX. 082-258-7221

2026.08　改訂版

備えあれば 安心・安全ライフ ORIRO

ORIRO 斜降式救助袋

一般財団法人　日本消防設備安全センター
認定番号　ふS-005-4号（F-2）

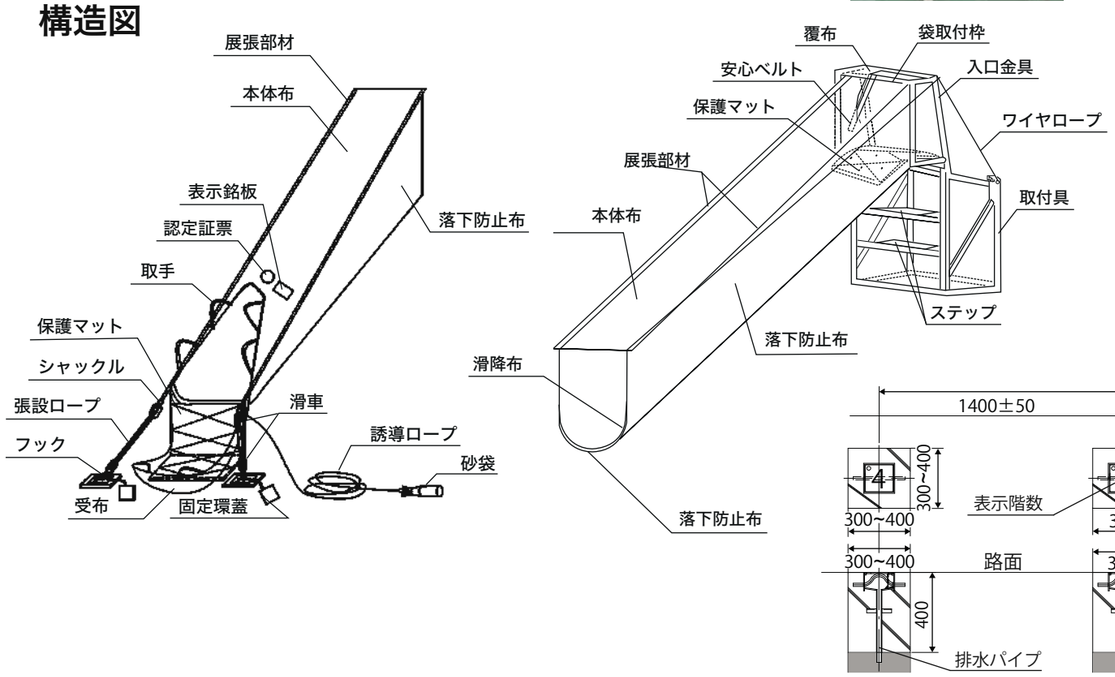
斜降式救助袋（F-2）

一般財団法人日本消防設備安全センター
認定番号　ふS-005-4号(F-2)





構造図



特　長

1）滑降面に落下防止布を設けた二重構造であり、２本の展張部材で構成されています。

2）降下速度を一定にするため、傾斜を約 45 度としています。連続降下にも十分耐える構造です。

3）滑車は耐久性を重視し、樹脂製仕様としています。

4）環境や温度の変化による帆布の劣化を防ぐため熱処理で形やサイズを安定させる『ヒートセット（特殊加工帆布）』を採用しています。

5）格納箱には大気汚染や人体への影響がない環境に優しい粉体塗装を施しています。

6）国家資格である一級帆布製品製造技能士が製造に携わり「安心・安全な品質」を徹底しています。

	設　置　位　置			
	開口部の大きさ	操作面積	降下空間	避難空地
救助袋（斜降式）	高さ0.6 m 以上 幅 0.6 m 以上 h：開口部の下端は床面から1.2m 以下とすること。ただし、避難上支障ないように固定又は、半固定のステップ等を設けた場合はこの限りではない。	1.5m 以上 1.5 m 以上 救助袋 開口部 救助袋の設置部分を含み、幅 1.5m 奥行き 1.5m 以上とする事。なお、特に操作に支障のない範囲で、2.25 ㎡以上の面積で形状を変える事ができる。	25° 1.0m 心中の袋 1.0m 35° 1.0m　1.0m 降下空間 25° L H(m) 35° L=H×0.2	2.5 m 1.0m 以上 1.0m 以上
備考	1　開口部は、入口金具を容易に操作できる大きさであり、かつ、使用の際、袋の展張状態を設置位置近くの開口部等（設置開口部も含む。）から確認できること。 2　防火対象物の側面に沿って降下する場合の降下空間は、救助袋と壁面との間隔（最上部を除く。）は、0.3m（ひさし等の突起物の先端から 0.5m（突起物が入口金具から下方 3m 以内の場合は、0.3m））以上とする事ができる			

斜降式救助袋取扱説明

斜降式操作方法（上部操作）

①格納箱を取り外す（分解型）



1. 上蓋の両側についている止め金具を外し①、取手を持って上蓋を取り外す。②
2. 前板の両側についている止め金具を外し③、取手を持って前板を取り外す。④
3. 救助袋の取り付けてある開口部の窓、カーテン、ブラインド等を完全に開放する。

⚠ 注意－ ● 格納箱の止め金具に指を挟まれないようにすること。指等に、ケガをする怖れがあります。

（手前引き型は、取手を持って手前に引き、取り除く。）

⚠ 注意－ ● 手前に強く引くと倒れることがあります。

②バンドを引き、砂袋を投げる



1. 袋本体を締めてあるバンドを手前に引きバンドを解く。①
2. 誘導網の先端についている砂袋を地上に投下する。②

⚠ 注意－ ● 誘導網の輪がもつれてないか確認する。
● 砂袋を投下する時、ひさしや、階下の屋根等の障害物がある場合は、引っ掛からないようにすること。砂袋が途中で引っ掛かると袋の展張ができません。
● 地上に人がいないことを確認すること。地上に人がいる場合は、注意して砂袋を投下すること。

③袋本体を降ろす



1. 袋本体を先端から徐々に地上に降ろす。①

⚠ 注意－ ● 袋本体を降下させる時、障害物などにより途中で静止した場合は袋本体を引き上げ、降ろし直すこと。
● 袋本体を降下させる時にサッシの角、止め金具等の障害物に引っ掛からないようにすること。袋本体が損傷を受けることがあります。

▲ 警告－ ● 袋本体が途中から自重で急速に落下することがありますので、手や衣服等を巻き込まれないこと。転落等の怖れがあります。

④入口金具を回転させる



1. 袋本体が降下し終わったことを確認する。①
2. 入口金具の両側のワイヤロープ２本を持つか④、または入口金具の下端部分のパイプを持って回転させる。②
3. 入口金具の２段、３段とアームを伸張する金具は折りたたんだままの状態にて回転させる。③

⚠ 注意－ ● 入口金具を回転する時、指や衣服等を巻き込まれないこと。ケガの怖れがあります。
● 伸張させた状態で回転させると開口部上端に当たり回転できないことがあるのでしないこと。

4. 入口金具が一定の所で静止した状態で両端のワイヤロープ２本が正常に展張されているか確認する。④
２段、３段とアームを伸張する金具で、入口金具の上端部にバンドの付いているものは、バンドを引く、入口金具の内部よりアーム（支持枠）を伸張させ全体が正常に伸張されているか、内側、外側より確認する。

⚠ 注意－ ● 正常に伸張されていないと降下できません。

操作方法（下部操作）

地上の固定環にセットする（地上要員）



1. 地上要員は、降下してきた救助袋の階数表示を確認した上で固定環の蓋の階数表示と照合し蓋を開ける。

⚠ 注意－ ● 階数表示を間違えると正常な展張ができません。

2. 袋本体出口部から接続されている、張設ロープ先端の滑車（２車）に付いているフックを取手より外し、袋本体がよじれていないか確認の上、左右のフックを見極めて固定環に１個ずつ掛ける。

⚠ 注意－ ● 固定環にフックを間違えて掛ると、袋本体にねじれが生じ正常な展張ができなくなります。



3. 下端支持装置の張設ロープの先端のフックを固定環に引掛け、張設ロープの末端を滑車間のロープの中を通して①、地上高約 50㎝ 位の高さになるようにに充分に引き、ロープを逆方向に引っ張って固定する。②
袋本体出口部と地上面との高さが 50㎝ 以下に張設されたら、逆方向にロープの間に食い込ませ固定する。②

4. 袋本体の出口部に腰を下ろし荷重を掛け、袋本体が左右均等に展張されているか確認する。左右が均等でない場合は均等になるよう調整し、ロープを固定する。②



⚠ 注意－ ● 袋本体が左右均等に展張されていないと片だるみが生じ降下しにくくなります。

5. 正常に展張されたら受布を持ち、上階の降下者に降下準備完了の合図を送ります。③

▲ 警告－ ● 固定環にフックが正常に掛かっていない場合や張設ロープが充分に固定されていないと、落下等の原因になるので充分に確認すること。

降下方法

①降下する



1. 取付金具に設けられているステップを手前に倒す。①
2. 地上の合図により入口枠の上端を持って足から入り、正面にある安心ベルトを持って両足を揃えて降下姿勢をとる。②

▲ 警告－ ● 降下者は、頭から袋の中に絶対に入らないこと。頭から地上に着地するため大変危険です。
● 袋の中に勢いよく入らないこと。加速がつき出口で飛び出す事があります。

⚠ 注意－ ● 入口金具の入口部で立ち上がらないこと。立ち上がると開口部の枠等で頭を打つ事があります。

②降下姿勢



1. 両手を上にするか、または胸の上において自然体の姿勢で、かかとをやや上げて背及び腰部で滑り降りる。

⚠ 注意－ ● 降下者は、腕や足を急に広げたり突っ張ったりすると急ブレーキがかかり、すり傷等を受ける怖れがあるのでしない事。
● 出口部では、両足が地面に着くまで絶対に立ち上がらないこと。
● 着地前に立ち上がり、左右に脱出すると転倒する怖れがあります。
● 出口部では、正面に向かって脱出し、できるだけ横方向には行かないこと。

③地上要員



1. 地上要員は、出口部の受布を持ち、降下者が出口部より飛び出さないように受け止める。
受布の注意表示布による。

⚠ 注意－ ● 地上要員が受布を持っていないと降下者が飛び出す場合があります。

⚠ 注意喚起　指・衣類のはさみ込み注意

※　避難器具の設置基準上、下地補強（建築施工）が必要になる場合があります。